

「クラウドコンピューティングとビッグデータの将来」

- 主催：クラウドビジネス推進研究会
- 担当部署：インダストリ・システム部
- 参加者数：約70名

概要

JEITA 情報・産業社会システム部会では、有識者との意見交換や講演会の開催を通じて、クラウドコンピューティングの正確な実態認識を共有するため、平成24年度より「クラウドビジネス推進研究会」を新規に設置いたしました。

今回は、クラウドビジネス推進研究会主催講演会の第5弾として、国立情報学研究所佐藤一郎教授をお招きし、クラウドコンピューティングのビジネスモデルはどうか、技術的な背景に基づき、ビッグデータ活用に必要な条件・ビジネスモデルとは何かについて、そして、データセンターの進化の方向性等についてお話を頂きました。主な内容は下記の通りです。

- ・クラウドコンピューティングへの動きはますます加速し、システム開発業界や開発者だけでなく、企業経営そのものにも影響してくる。
- ・ここにおいては、システム開発からサービス提供に発想の転換が必要であり、受注システム開発の常識はもはや通用しない。
- ・事業者は、作るのではなく、使ってもらうことによって対価を得るビジネスを検討するべきである。
- ・ビッグデータについては、収益拡大（新しい儲け口）にはなかなかつながらないが、過去の損失事例をパターン化して、回避することはできる。

(例) ネットゲームの解約防止策等

- ・企業の差別化のためには、システム技術よりもデータ蓄積が重要であり、商品のPOS的な管理からPOU (Point of Use) 管理が重要になる。



プログラム

○クラウドコンピューティングとビッグデータの将来

講師：国立情報学研究所 佐藤一郎 教授